

豊田市  
郷土資料館だより

No.107

目次

トレイルカメラで大調査！ ～カメラが捉えた自然観察の森の動物たち～	2
猿投神社 山中観音堂	4
できなかった企画展 「縄文ライフ！～SDGsの種を探しに～」の これまでとこれから	5
令和元年度 文化財保護事業報告	6
令和元年度 郷土資料館事業報告	7
記憶をつなぐ博物館 ～（仮称）豊田市博物館における取組～	8

令和2年度 豊田市郷土資料館企画展

# スペイン風邪と コロナウイルス

1920⇨2020⇨2120

国立保健医療科学院図書館所蔵  
内務省衛生局著、流行性感冒、1922.3.

とき 令和2年7月14日(火)～11月29日(日) 午前9時～午後5時  
月曜休館(ただし、8月10日、9月21日、11月23日は開館)

ところ 豊田市郷土資料館 第2展示室・ロビー 観覧料 無料

主催: 豊田市 マメにマスクを。

企画展

## 「スペイン風邪と コロナウイルス」

とき 7月14日(火)～11月29日(日)

ところ 豊田市郷土資料館 第2展示室・ロビー

募集

コロナの中の暮らしの記憶  
2020⇨2120プロジェクト



募集期間: 11月29日(日)まで

募集内容: ①日々の暮らしに関わる記憶

②仕事に関わる記憶

③学校に関わる記憶

④ステイホームの過ごし方に関わる記憶

募集方法: 会場で「記憶カード」に記入か、郷土資料館ホームページ内のフォーマットに必要事項を入力



Webサイト  
こちら



# トレイルカメラで大調査！ ～カメラが捉えた自然観察の森の動物たち～

郷土資料館では、昨年11月から今年2月までの約3か月間にわたり、豊田市自然観察の森でレンジャーやボランティア、一般参加のジュニア調査員の皆さんと一緒に、トレイルカメラを使ったほ乳類の記録調査を行いました。今回はその結果をご紹介します。



調査に使用したトレイルカメラ



カメラを設置している様子  
角度や高さにも注意しながらカメラを設置します

## そもそもトレイルカメラってなんだ？

トレイルカメラとはセンサーカメラの一種で、赤外線センサーによって温度変化（熱）を感知すると、自動的に撮影をしてくれる優れものです。昼夜を問わず、動物がカメラの前に現れたタイミングに絞って撮影することが可能なうえ、無人撮影であるため、警戒心の強い野生動物の姿をありのままに記録することができます。とはいえ、うまく撮影するためには、野生動物が現れやすい場所を予想しながら設置場所や撮影角度を決める必要があります。足跡や獣道など、動物たちの活動の痕跡を探しながら行うトレイルカメラを使った撮影は、さながら野生動物との知恵比べです。

## カメラが捉えた観察の森の動物たち

今回の調査で撮影された映像や写真は、あわせてなんと772カット。確認されたほ乳類は、全11種類でした。その中には、自然観察の森敷地内では8年以上ぶりの確認となる、ホンドギツネの姿もありました。また、アライグマが木に登る瞬間や森を走り回るイノシシの親子など、動物たちの森での生活の一端を知ることができる、貴重な瞬間を数多く記録することができました。夜間の撮影が多いため、決して解像度は高くありませんが、撮影された彼らの姿を下段でご紹介しましょう。

イタチの仲間に見えるけど  
ジャコウネコ科です

ハクビシン

僕が正真正銘の  
イタチです

二ホンイタチ

イタチさんより  
大きくて、  
手足が黒いよ！

ホンドテン

とても  
小さいんです

アカネズミ

帰宅途中です

ネコ

まだ子供です

二ホンイノシシ

## 動物たちはいつ活動しているの？

トレイルカメラで撮影をすると、撮影時刻と一緒に記録されます。この時刻に注目してみると、いつ動物たちが活動しているのかを探ることができます。今回の記録の中から、撮影回数の多かった7種類のは乳類の撮影時刻を観察の森レンジャーの大熊さんが一覧にまとめてくれました。

自然観察の森標本資料館周辺のは乳類7種の活動時間(網かけ部分)

種別	0時	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時
アライグマ																								
ホンゴシキ																								
ニホンイタチ																								
ニホンリス																								
ホンダタヌキ																								
ホンゴサン																								
ハクビシ																								

作成 大熊千晶氏(豊田市自然観察の森)

全体的には、日没から早朝にかけて活動しているようで、特に18~19時ごろ、0~1時ごろに多くの種類が撮影されていることが分かります。また、それぞれの活動時刻のパターンをよく見てみると、種類ごとに異なる活動時間をもっていることがわかります。中には、ニホンイタチのように、日中に活動している種もいるようです。

同じような時間帯に活動している動物も多いので、同時に複数の種類を撮影できそうなものですが、不思議とそうしたことが起こらない理由は、この活動時間の微妙な差に隠されているようです。

獣道や餌場など、動物たちは種類を超えて生活の場を共有していることが多々あります。とはいえ、うっかり鉢合わせてしてしまえば、その場をめぐる争うことになってしまうため、お互いに出会わないように絶妙な間隔で行動しているのでしょう。一見広い森の中ですが、動物たちの間にもある程度のルールや譲り合いがあるようです。

## あなたのそばにも動物たちが!?

今回カメラが捉えた動物たちは、決して自然観察の森だから撮影できたわけではありません。実はその多くが、私たちの身近な場所にも生息しています。動物たちは人間の気配が消える夜中に活動しているため、なかなか会うことができませんが、足跡などのフィールドサインから彼らの痕跡を見つけ出すことはそれほど難しいことはありません。もしも、家の近くで見慣れぬ動物の足跡や痕跡を見つけたら、気配を消してそっとあたりを見渡してみてください。思わぬ動物たちとの出会いが待っているかもしれません。

(酒井 博嗣)

### 違いがわかるかな!?



アライグマ

ホンダタヌキ

新芽はないかな?



ノウサギ

平らなところが好き



ニホンリス

み、見ないで!



ホンダゴツネ

トレイルカメラは見た!  
豊田市自然観察の森のどうぶつ展

撮影した映像と  
剥製が見られます

開催期間: 令和2年9月30日(水)まで ※現在開催中  
場所: 豊田市自然観察の森 2階  
(豊田市東山町4丁目1206番地1)  
開館時間: 午前9時~午後5時30分  
(月曜日休館、月曜が祝日の場合は開館)



## さなげ 猿投神社

木漏れ日が差し込む木々の中、猿投神社の鬼門（北東）に建つこのお堂は、「山中観音堂」と呼ばれる建物です。令和2年6月に市指定文化財（建造物）となりました。



山中観音堂の創建については資料が少なく、造営の経緯などは明らかではありませんが、本尊・千手観音菩薩立像は平安中期の作品とされています。猿投神社の文書「貞和五年年中祭礼記」の記述には「千手院開山八侍従アサリ（阿闍梨）長喜山僧云」とあり、「千手院」が観音堂のこととすれば、貞和5年（1349）には存在していたこととなります。正確な建立年は明らかではありませんが、現在の本堂は、斗拱の渦模様やかえるまた臺股の様式から室町時代末期頃の建立とされています。

その後、このお堂は修繕を繰り返し現在に至ります。現在は銅板葺の屋根ですが、「白鳳山勝景図」（文化5年〔1808〕）に描かれている堂の様子から、近世にはひわだぶき檜皮葺あるいはわら藁葺であったと考えられています。堂の大きさは三間四方で、奥に半間程度の下屋が増築されています。柱間上部にはさしがちい差鴨居・板壁がはめられ、下部には敷居の痕跡があることから、当初は内陣と外陣の二間に分かれていたことがわかります。

堂内正面奥には、秘仏である本尊・千手観音菩薩立像（昭和50年〔1975〕市指定文化財）、脇侍の不動明王立像、毘沙門天立像（平成27年〔2015〕附と

## やまなかかんのんどう 山中観音堂



して追加指定）が祀られるほか、厨子前におまえたち御前立となる千手観音菩薩立像、坐像の六観音（千手観音・聖観音・准胝観音・白衣観音・馬頭観音・如意輪観音）、両脇の余間には不動明王像（二体）、阿弥陀如来坐像（二体）、弘法大使坐像と小像数点が祀られています。これらは廃仏毀釈により一旦は散逸した猿投神社神宮寺の仏像群の一部と考えられます。

猿投神社は、嘉永6年（1853）の火災によりみこし神輿殿を除く境内の建物を焼失しましたが、本社から300メートルほど離れていたこの堂は類焼を免れました。また、廃仏毀釈の際にも取り壊されることなく現在に至ります。猿投神社の東にある旧龍性院庭園（平成29年〔2017〕国指定名勝）と合わせ、猿投神社一帯の史跡を形づくる大切な文化財のひとつとなっています。



堂内に安置された吊提灯や什物からは、昭和期の観音信仰の隆盛を感じることができます。

現在は、隣接する大悲殿東昌寺の主催で観音法要（毎月17日）が営まれ、信仰が受け継がれています。また、山登りのシーズンには猿投山への登山者が堂前で手を合わせる姿が見られます。

本堂周辺は、猿投地区の皆さんによる環境整備が行われており、山中観音堂も保存・維持のために6月上旬から12月下旬の予定で床と天井を中心に修復工事を行っています。修復工事の様子は、後日ご報告したいと思います。（梅村 美紀子）

できなかった企画展



# 縄文ライフ! ~SDGsの種を探しに~



のこれまでとこれから

## はじめに

豊田市郷土資料館は、新型コロナウイルス感染症拡大にともなう影響により、4月11日(土)～5月18日(月)まで休館していました。その影響により、5月16日(土)から予定していた企画展「縄文ライフ!～SDGsの種を探しに～」も延期となり、来年度あらためて開催する予定となりました。今回は、開催準備を行いつつも、今年度開催に至らなかった展示について、皆さまに一足先に、どのような内容になる予定だったのか、来年度に向けての抱負などをレポートしたいと思います。

そもそもこの企画展は、豊田市の公立学校の有志で組織されている「豊田市教育自主研究グループ(社会科)」の先生方との連携展示でした。学校の授業で縄文時代を勉強する時に、どのような形で資料館に「ホンモノ」の資料が展示してあると、子ども達の理解が深まるのか、ということ先生方と一緒に考えたものです。昨年度は、企画展「縄文人はグルメだったか!？」を開催し、縄文時代の人々が住んでいた竪穴住居の内部の様子や、当時使われていた資料を展示しました。

今年度の展示も縄文時代を扱うこととし、先生方と企画を練っていきました。その中で、「SDGs」と縄文時代と一緒に展示することで、縄文時代のことだけではなく、「持続可能な社会」についても考えてもらうことができないか、という意見が挙がりました。私たち学芸員が縄文時代の展示をしようとする時、縄文時代のことだけに焦点をあてることが多いのですが、先生方ならではの視点に、今回の企画展の内容を試みようと思いました。

## 「縄文時代」と「SDGs」!?

そもそも「縄文時代」は、日本で約1万年以上続いた狩猟採集の時代です。この間には、最終氷期と呼ばれる寒冷な気候から温暖化が次第に進み、周辺環境に大きな変化が起こった時代でした。この時代の人々は、

それぞれが暮らす環境の中で、限りある資源を有効に活用して生きていました。

一方、「SDGs」は豊かな生活と環境とのバランスを考えながら、これから私たちが生きていく世界を、どうしたらより良いものにしていくことができるかについて、世界中で行動していく開発目標です。「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」と呼ばれ、2015年9月の国連サミットで採択されました。

関係がないように見えるこの2つの事柄ですが、電気もガスも水道もなかった縄文時代の暮らしを知ることで、より良い世界、より良い暮らしを目指していくための今に繋がる「ヒント」を見つけられるような展示にしたいと私たちは考えていました。

展示制作を詳しく進めている途中で、企画展の延期が決まり残念な思いをしましたが、来年度に向けて、さらに内容を充実させて、あらためて皆さまにご覧いただきたいと思っています。来年度の展示まで、しばらくお待ちください!

(名和 奈美)

**縄文時代とSDGs!?**

縄文時代は、最終氷期から最終氷期後にかけての時代です。この間には、最終氷期と呼ばれる寒冷な気候から温暖化が次第に進み、周辺環境に大きな変化が起こった時代でした。人々は、それぞれが暮らす環境の中で、限りある資源を有効に活用して生きていました。

一方、「SDGs」は豊かな生活と環境とのバランスを考えながら、これから私たちが生きていく世界を、どうしたらより良いものにしていくことができるかについて、世界中で行動していく開発目標です。「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」と呼ばれ、2015年9月の国連サミットで採択されました。

関係がないように見えるこの2つの事柄ですが、電気もガスも水道もなかった縄文時代の暮らしを知ることで、より良い世界、より良い暮らしを目指していくための今に繋がる「ヒント」を見つけられるような展示にしたいと私たちは考えていました。

では、SDGsの種を探しましょう!

**SDGs**

豊田市郷土資料館  
愛知県豊田市神宮町1-21-2  
TEL: 0565-32-4564 FAX: 0565-34-0095  
HP: <http://www.toyota-rekihaku.com>  
FB: <https://www.facebook.com/toyota-rekihaku>

## 1 文化財保護審議会 3回

- ・豊田市指定文化財（猿投神社山中観音堂、川原宮舘神社本殿）の指定についての諮問
- ・（仮称）豊田市博物館整備に係る設計業務等の進捗状況の報告など
- ・文化財防火デー：  
六鹿邸（高岡町）、足助伝統的建造物群保存地区（足助町）、観音寺（乙部町）、性源寺（広川町）

## 2 伝統的建造物群保存地区保存審議会 2回

## 3 埋蔵文化財保護の概要

## ○有無の照会・届出

- ・埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の有無照会 645件  
（平成29年度 865件、平成30年度 706件）
- ・遺跡内での開発の届出・通知 合計116件  
（民間89件・公共27件）  
（平成29年度 140件、平成30年度 132件）

## ○調査

- ・範囲確認調査・試掘調査など 22件
- ・本調査 1件（下表）

表 本調査を実施した遺跡一覧

遺跡名（所在地）	調査原因	調査面積（㎡）	主な遺構
伊保古瓦出土地（保見町）	学術	150㎡	瓦だまり

## ○発掘調査報告書刊行

第82集『神明遺跡Ⅳ』

第83集『寺部遺跡Ⅹ』

第84集『寺部遺跡Ⅺ』

『平成30年度市内遺跡発掘調査事業概要報告書』



調査風景

## 4 文化財等保存維持・修理補助事業

- ・有形文化財保存修理2件（川見薬師寺鐘楼門ほか）
- ・有形民俗文化財保存修理2件（足助田町山車ほか）
- ・史跡名勝天然記念物保存整備2件（旭貞観スギほか）
- ・文化財保存施設整備1件（志賀町山車蔵）
- ・有形文化財保存維持1件（足助八幡宮消防設備）
- ・有形民俗文化財保存維持16団体
- ・無形民俗文化財保存維持26団体
- ・伝統的郷土芸能保存維持17団体
- ・伝統的郷土芸能保存修理2件（西山万歳ほか）
- ・郷土の先人顕彰活動4件

## 5 史跡・名勝・建造物等整備・修理

- ・足助城法面及び柵列修理
- ・車塚古墳法面修理
- ・足助中馬館消防設備など
- ・倒木伐採（百々貯木場・大給城跡・丸根城跡・馬場瀬古墳群）

## 6 民俗芸能普及推進

- ・民俗芸能記録 御田扇祭り（畝部西町）  
※一般財団法人地域創造の助成による



御田扇祭りの様子

## 7 計画等策定

- ・（仮称）豊田市博物館新築設計（令和元・2年度）
- ・（仮称）豊田市博物館展示・収蔵環境等設計（令和元・2年度）

## 8 その他

- ・二ホンカモシカ滅失対応 45件
- ・（仮称）豊田市博物館に関わる市民周知  
（展示会場：14,839人／イベント出展等865人）

**1 展示・入館者数**

令和元年度入館者数 10,608 人

- ・企画展「縄文人はグルメだった!？」  
(5/18～6/23) 1,327 人
- ・修復記念特別公開「よみがえる織田信長像」  
※美術館で開催 (6/1～6/16) 12,633 人
- ・企画展「山の上の緑の学校」(7/8～9/18) 2,246 人
- ・企画展「猪・鹿・カモ!？」(9/28～12/1) 1,654 人
- ・企画展「食べ物と道具」(12/14～3/8) 2,864 人
- ・特別展「猿投山」(1/18～3/22) 2,554 人
- ・修復記念特別公開「守綱寺障壁画」  
(3/28～4/10) 532 人



特別展の様子

**2 資料調査**

- ・旧鈴木家住宅古文書調査／市内各地民具調査

**3 資料収集・複製・修復**

- ・市指定文化財守綱寺障壁画修復

**4 資料貸出**

- ・他館等への資料貸出し（写真含む） 132 件

**5 講座ほか**

- ・体験講座 8 回  
(まが玉づくり、お手玉講座 計 121 人)
- ・子ども向け体験企画 長期休暇期間にあわせ 3 回  
春 344 人／夏 1,714 人／冬 612 人
- ・よろいを着てみよう 1 回／218 人

**6 とよた歴史マイスター活動**

認定者 87 人 活動参加者数 延べ 581 人



マイスター活動の様子

**7 郷土学習スクールサポート**

- ・延べ 215 校／18,146 人の小中学生、特別支援学校が利用
- ・とよた歴史マイスターの活動 70 件／参加延べ 198 人、対応児童生徒 4,426 人



スクールサポートの様子

**8 近代の産業とくらし発見館**

令和元年度入館者数 12,328 人

- ・企画展「まゆまつり 2019 ～とよたの養蚕と信仰～」  
(4/23～7/7) 2,409 人
- ・ミニ企画展「開業 40 周年 名鉄豊田線」  
(7/13～9/1) 2,612 人
- ・企画展「Exhibition HISTORY OF TOYOTA CITY」  
(9/10～10/20) 2,148 人
- ・企画展「あの頃の風景 あの頃のカメラ」  
(12/3～3/1) 2,515 人
- ・ものづくり体験・講座：「ガラ紡糸のコースターづくり」、「干支まゆ人形・亥」など
- ・見学会：「養蚕農家を訪ねて」など
- ・ぶらコロモ：年 4 回開催（名木めぐり編、路地めぐり編、グルメめぐり編、運氣アップ編）
- ・その他：ふれ愛フェスタ 2019 にブース出展など



企画展「開業 40 周年 名鉄豊田線」(鉄道模型 個人蔵)

# 記憶をつなぐ博物館 ～（仮称）豊田市博物館における取組～

私が大学で歴史を学び始めた頃だったでしょうか、実家の仏壇の引き出しに、大伯父（祖父の兄）の日記があることを知りました。祖父から話を聞くと、大伯父は中支那派遣軍として南京に赴き、昭和14年（1939）10月に21歳の若さで病死しているということでした。日記は、上官からの指示事項などをメモした手帳の裏側から書かれ、同年4月に名古屋駅を出発し、神戸港から上海に向かう船中の様子、兵営での生活などが記されていました。また、別の便箋には、入院が決まり、病院に向かう道中の様子なども記されていました。

- ・「正午出発した名駅にて、父盛んに私をさがす。すぐ会へた。元気で出発するから何も心配いらないとつたふ。父の心尽しのビールをやっともらふ。発車十分に皆と乾杯した。うまかったこの味は一生忘れることが出来ない。」（4/11）
- ・「（船中にて）娯楽会は目の前でも始まった。ネチハチマキ、半裸で軍歌から流行歌、八木節からオケサ節、嘗て幾多の敵前上陸の先輩が歌ったと同じ様に私達の戦友はどなっている。船も破れんばかりだ。（中略）誰の顔も脂汁でテラテラ光っている。」（4/13）
- ・「通信の教練を受けている。手旗を始めてから足かけ三日目。イロハは全部書ける様になったが、まだ読み方がいかぬ。此処一週間程、毎日十一時過ぎにねているので睡眠不足であるが、頑張つてやっている。昨日は通信に必要なものを買った。（中略）俸給をもらったときうんと酒保でたべてしまったので、結局今一円八十銭しか財布にない。煙草代にも不足だ。如何しやうと思案にくれる。」（5/26）
- ・「（病院にて）同行した深沢上等兵殿は兎に角充分身体を直して来る様くれぐれも注意をして帰った。下から心よいレコードが聞こえてくる。名も知れぬ鳥が囀っている。やはり病院だとなと思った。（中略）六時に食事が上った。副食物として魚の塩焼と、玉葱のお清汁が出た。今まで隊で給与された様なほとんど重米ばかりの粥ではなく、花がきれいに咲いた様なと云ひたい程フワリたけた粥であった。」（9/26）



丁寧に綴られた記録は、戦地の様子がわかる歴史資料と言えるかもしれませんが、それ以上に、その時代に生きたひとりの人物の記憶として心惹かれるものでした。

昔のものに触れることは、そのものに関わる人の記憶に触れることだと思っています。博物館においては、そのように、ものの声を聞き取るのが学芸員の仕事だと言えるかもしれません。ただ、ものの声を聞くのは、学芸員だけではありません。現在、整備を進めている新しい博物館は、「みんなで作る博物館」として、皆さん自身が家にある思い出の品を展示したり、その記憶を紹介していく取組を行います。博物館で展示することで、個人や家族の記憶が、他の来館者の記憶とつながっていきます。

今回、しばらくぶりにこの日記を開きました。祖父はずでに他界しましたが、祖母・両親と、祖父の思い出を語るとともに、誰も会ったことがない大伯父の記憶に触れました。例えば、この日記を博物館で展示することができれば、大伯父と同じ部隊にいた人や同じような経験をした人の家族の目にとまるかもしれません。当時のことに思いをはせ、各々の記憶をつなぎながら、語り合うことができればと思っています。

（山田 佳美）

## 豊田市郷土資料館利用案内

開館時間 午前9時～午後5時  
休館日 毎週月曜日（祝祭日は開館）  
入館料 無料（特別展開催中は有料）  
交通案内 名鉄「梅坪駅」より南へ 徒歩10分  
名鉄「豊田市駅」より北へ 徒歩15分  
愛知環状線「新豊田駅」より 徒歩15分  
とよたおいでんバス「陣中町一丁目」より西へ 徒歩5分  
駐車場 約20台

## 豊田市郷土資料館だより No.107

令和2年7月9日発行  
編集・発行 豊田市郷土資料館  
〒471-0079 豊田市陣中町1-21-2  
TEL.0565-32-6561 FAX.0565-34-0095  
E-mail rekihaku@city.toyota.aichi.jp  
URL <http://www.toyota-rekihaku.com>  
FB <http://facebook.com/toyotarekihaku>  
豊田市郷土資料館だよりは、HPでもご覧いただけます。